

学校規模・配置

学校・学科の選択肢や生徒の通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に次のとおり取り組みます。



全日制課程

東青地区 (中学校卒業生数(見込み) R4:2,492人 → R9:2,216人(△276)) (単位:学級)

学校・学科	年度・学級数等	第2期実施計画		備考
		R4	R5~R9 期間内増減	
青森	普通	6	6	重点校
東青地区統合格	普通	—	+6	R9 募集開始
青森西	普通	6	△6	R9 募集停止
浪岡	普通	2	△2	R10 年度未開校
青森東	普通	6	6	
青森北	普通	4	4	
	スポーツ科学	1	1	
青森南	普通	4	△1	外国語科をグローバル探究に改編
	グローバル探究	—	+1	
	外国語	1	△1	
青森中央	総合	5	△1	
	機械	1	1	
	電気	1	1	
	電子	1	1	
青森工業	情報技術	1	1	拠点校
	建築	1	1	
	都市環境	1	1	
青森商業	商業	4	4	拠点校
	情報処理	1	1	
地区計		46	△4	

青森西・浪岡→東青地区統合格

統合格年度:令和9年度
 設置場所:青森西高校の校地(既存校舎を活用する予定)
 学科構成:普通科6学級
<統合格の方向性>
【統合格が目指す姿】
 ○生徒の個性や能力を伸ばし、生徒の幅広い進路志望の実現に寄与する高校
 ○地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校
【統合格における教育活動の例】
 ○生徒一人一人の学習ニーズに応じたきめ細かな指導や、社会的・職業的自立に向けた系統的なキャリア教育の推進
 ○地域行事への積極的な参加等、地域の歴史・文化に対する理解や愛着を深める教育活動の推進
 ○地域資源を活用したボランティア活動等、社会に積極的にに関わり、地域の魅力を国内外に発信する教育活動の推進

下北地区 (中学校卒業生数(見込み) R4:578人 → R9:464人(△114)) (単位:学級)

学校・学科	年度・学級数等	第2期実施計画		備考
		R4	R5~R9 期間内増減	
田名部	普通	5	5	重点校
下北地区統合格	総合	—	+3	
	機械	—	+1	R9 募集開始
	電気・エネルギー	—	+1	
大湊	総合	4	△4	
	機械	1	△1	R9 募集停止
むつ工業	電気	1	△1	R10 年度未開校
	設備・エネルギー	1	△1	
大間	普通	※ 2	※ 2	地域校
地区計		14	△2	

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応

大湊・むつ工業→下北地区統合格

統合格年度:令和9年度
 設置場所:むつ工業高校の校地(校舎を新たに整備する予定)
 学科構成:総合学科3学級、工業科2学級(機械/電気・エネルギー)
<統合格の方向性>
【統合格が目指す姿】
 ○幅広い知識や視野を身に付けさせ、生徒一人一人の進路志望を実現する高校
 ○生徒の個性や能力を伸ばさせ、豊かな社会の実現に寄与する高校
 ○専門的な知識・技能を身に付けさせ、地域産業の発展に貢献する高校
【統合格における教育活動の例】
 ○学科や系列の枠を超えた探究活動を行うなど、総合学科と工業科の連携による教育活動の推進
 ○地域の社会人や有識者の積極的な活用や多様な選択科目の開設等、生徒の進路意識を高める教育活動の推進
 ○熟練技能者による技術指導や大学・企業との連携による最先端技術の学習等、高い専門性を身に付けさせる教育活動の推進

中南地区 (中学校卒業生数(見込み) R4:2,112人 → R9:1,935人(△177)) (単位:学級)

学校・学科	年度・学級数等	第2期実施計画		備考
		R4	R5~R9 期間内増減	
弘前	普通	6	6	重点校
弘前中央	普通	6	△1	
弘前南	普通	6	△1	
黒石	普通	3	3	
	情報デザイン	1	1	
	看護	1	1	
柏木農業	生物生産	1	1	生活科学科を生物生産科に統合
	環境工学	1	1	
	食品科学	1	1	
	生活科学	1	△1	
弘前工業	機械	1	1	拠点校
	電気	1	1	
	電子	1	1	
	情報技術	1	1	
	土木	1	1	
	建築	1	1	
	商業	2	2	
弘前商業	情報処理	1	1	
	家庭科学	1	1	
	服飾デザイン	1	1	
	スポーツ科学	1	1	
地区計		39	△3	

西北地区 (中学校卒業生数(見込み) R4:985人 → R9:824人(△161)) (単位:学級)

学校・学科	年度・学級数等	第2期実施計画		備考
		R4	R5~R9 期間内増減	
五所川原	普通	4	4	重点校
	理数	1	1	
木造	総合	4	△1	
鯉ヶ沢	普通	1	※ 1	地域校
	普通	2	2	
五所川原工科	機械	1	1	
	電子機械	1	1	
	電気	1	1	
五所川原農林	生物生産	1	1	拠点校
	環境科学	—	+1	
	森林科学	1	△1	森林科学科と環境土木科を統合し、環境科学科に改編
	環境土木	1	△1	
	食品科学	1	1	
地区計		19	△2	

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応

地域校の規模・配置等に係る基準等
 <2学級規模の地域校> 入学者数が40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とします。
 <1学級規模の地域校> 募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満(20人未満)となった場合、募集停止等に向け、当該高校の所在する市町村等と協議します。
地域校の活性化に向けた対応
 地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会(仮称)における協議結果等を踏まえ、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に取り組みます。

上北地区 (中学校卒業生数(見込み) R4:1,583人 → R9:1,486人(△97)) (単位:学級)

学校・学科	年度・学級数等	第2期実施計画		備考
		R4	R5~R9 期間内増減	
三本木	普通	6	6	重点校
三沢	普通	※ 6	5	△1
野辺地	普通	2	△1	
七戸	総合	3	3	
百石	普通	2	2	
	食物調理	1	1	
六ヶ所	普通	※ 1	※ 1	地域校
	普通	2	2	
三本木農業恵拓	植物科学	1	1	拠点校
	動物科学	1	1	
	環境工学	1	1	
	食品科学	1	1	
十和田工業	機械・エネルギー	1	1	
	電気	1	1	
	電子	1	1	
	建築	1	1	
三沢商業	商業	2	2	
	情報処理	1	1	
地区計		34	△2	

※三沢高校については、第1期実施計画に基づき令和4年度に学級減を予定していたが、第2期実施計画期間中の中学校卒業生数の増加・減少の幅が大きくなるが見込まれ、これらの変動に対応する必要があることから、第2期実施計画期間に学級減を行う予定
 ※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応(六ヶ所高校については、令和2~3年度の入学人数が2年間継続して40人以下のため、令和4年度に1学級規模とする予定)

三八地区 (中学校卒業生数(見込み) R4:2,418人 → R9:2,262人(△156)) (単位:学級)

学校・学科	年度・学級数等	第2期実施計画		備考
		R4	R5~R9 期間内増減	
八戸	普通	6	6	重点校
八戸東	普通	5	4	△1
	表現	1	1	
八戸北	普通	6	5	△1
八戸西	普通	5	5	
	スポーツ科学	1	1	
三戸	普通	1	※ 1	地域校
名久井農業	生物生産	1	1	
	環境システム	1	1	
	海洋生産	1	1	
八戸水産	水産食品	1	1	
	水産工学	1	1	
	機械	1	1	
八戸工業	電気	1	1	拠点校
	電子	1	1	
	土木	1	1	
	建築	1	1	
	材料技術	1	1	
八戸商業	商業	2	2	
	情報処理	1	1	
地区計		39	△2	

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応

定時制課程・通信制課程

■定時制課程
 ○学級数の増減なし



■通信制課程
 ○募集人員の増減なし



魅力ある高校づくり

中学生から選ばれる魅力ある高校となるよう、各校の実情に応じて次のとおり取り組みます。

学校・家庭・地域等との連携の推進

●国内外の高校や大学等と連携した共同事業体(コンソーシアム)の構築等による生徒の進路志望に応じた高度な学びの提供や、地域への理解を深める学習である「あおり創造学」を進めることによる生徒の「ふるさとあおり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲の醸成等に取り組みます。

教育活動の充実に向けた取組

全国からの生徒募集の導入
 ●県外から目標を持った生徒を受け入れ、近年、入学者数が定員に満たない高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら、全国からの生徒募集を導入(令和5年度入学選抜からの導入を基本)します。
その他の取組
 ●「各校に関する情報発信の充実」、「特別な支援を必要とする生徒等への対応」、「ICTの活用による教育活動の充実」、「施設・設備の充実」等に取り組み、学校内外の教育資源を積極的に活用しながら、中学生に選ばれる魅力ある高校となるよう、各校の特色化・魅力化を図ります。

全国からの生徒募集導入校の決定方法

以下のいずれかに該当する高校(候補校)のうち、高校が所在する市町村から支援を前提とする申し出があった高校について、県教育委員会と市町村が協議した上で導入校として決定
 ①第2期実施計画において地域校とする高校(鯉ヶ沢高校、六ヶ所高校、大間高校、三戸高校)
 ②過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校(第2期実施計画における統合対象校を除く)(柏木農業高校、野辺地高校、七戸高校、名久井農業高校)

令和3年度 五所川原工科高等学校・三本木農業恵拓高等学校が新たに開校しました!

五所川原工科高等学校(西北地区統合格:金木高校、板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校)及び三本木農業恵拓高等学校(上北地区統合格:十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校)の取組を紹介します。



五所川原工科高等学校

「探究型学習」を柱として、自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に取り組みながら新たな学びに自走する意識・態度を養うことを目指した教育活動を実践しています。
■SDGs教育プログラム ~未来を考え、探究する力を育成する~
 ○SDGsワークショップ(4月)
 ワークショップの実施により主体的な学びや社会参加への意欲喚起を行うとともに、自己の役割を自覚し、他者と協働しながら活動することについて学びました。
 ○政治・経済・ものづくり分野からの学び(5月)
 五所川原市長、商工会議所会頭、津軽金山焼窯元による講義等を通じて地域課題に気付くとともに、社会貢献や仕事の意義について学び、自分自身の在り方や生き方を深く考えました。
■進学指導の充実
 普通科において、数学・英語の習熟度別クラス展開を行っています。



👉 生徒自身が自分らしい生き方を実現するための資質や能力を育むとともに、生徒一人一人が生き生きと学び、主体的に活動できる開かれた学校づくりを推進します!

三本木農業恵拓高等学校

校訓である「自主」「創造」「敬愛」のもと、これらを実践できる資質や人間性を育むことを目指し、様々な活動に取り組んでいます。
■ICTの活用
 プリント等の配布をインターネット上で行ったり、授業中の生徒の意見を画面に表示して共有したりするなど、ICTを活用した教育活動を行っています。
■「全校田植え」~普通科と農業科の融合~(5月)
 同じ校舎で学ぶ三本木農業高校の生徒と共に、統合前からの伝統行事である「全校田植え」に取り組みました。農業科はもちろん、普通科の生徒も田植えに参加し、田植えの大変さや農家の方の苦勞、田植機の素晴らしさなど、様々なことを知る機会となりました。
 また、生徒からは、「全員が全力で取り組める行事があることに感動した」との感想も寄せられました。



👉 普通科・農業科併置のメリットを生かしながら新たなことに挑戦し、これからの時代に求められる力を育みます!